

不登校への取り組み（共通）

令和8年4月1日

春木中学校 生徒指導部

1 不登校の予防（教師がすること）

- (1) 誰もが安心できる『**集団づくり**』をする（正義が通る、規律が保たれている、時間が守られている、共感的である、居場所がある、絆が深まる、わかってくれる人がいる・・・など）
- (2) 授業力を高め『**学力を保障**』する（意図的な仕掛けをつくるなど授業形態の工夫も）
- (3) 美しく、心落ち着く『**学習生活環境**』をつくる（清掃・ゴミ拾い、学級設営、整理整頓、花や植物）
- (4) 学校と家庭が何でも話せる『**信頼関係**』をつくる（日頃の関わりが大切）
- (5) 様々な角度、立場から生徒の『**見立て**』を行い、『**具体的な支援**』をしていく

3日連続欠席は原則として家庭訪問!

2 状況別の対応

| 休みはじめ（3日） | 休みが続く（1週間） | 月に数回の登校 | 全欠状態 |
|---|---|--|---|
| ① 休みの原因を探る（情報収集） ② まず本人、保護者の思いを聞く。本人にも原因がわからない場合（よくあります）は、無理に聞き取らず寄り添う姿勢で ③ 学年、生指、養護教諭、SCなどと情報共有や相談。多方面からの見立てが必要。具体的な支援策を立てる ④ 3日連続で休んだ場合は、原則として家庭訪問。 「心配している。」「大丈夫。」「待っている。」といった声かけを | ① 学校からのお知らせ、授業でのプリントはこまめに渡すようにする。登校刺激は子どもの状態による ② 別室登校や保健室登校も視野に入れて校内で調整をする。他の先生との協力体制をつくる（どの教室で過ごすか、誰が付くか） ③ 今できることを本人、保護者と共に考えていく（「学校にはどんな支援ができますか?」という姿勢で） | ① 本人の気持ちが安定してる、かつ、家庭との連携も○ならば低いハードルからの登校刺激も可 ② 身体症状が出ていたり学校への拒否感があるうちは「あなたを大切に思っていますよ。」とメッセージを送り続ける（手紙、電話、家庭訪問など） ③ 外部機関との連携（教育相談室、子家C、サポC、子ども家庭課、医療機関等） | ① 本人への支援を本人が負担にならないように行う。家庭訪問、手紙などのメッセージ。プリントの配慮（本人の気持ちに寄り添う） ② 保護者との関係づくり。子どもにとって何が一番良いのか一緒に考えていく姿勢。学校からのお知らせは定期的に。連絡は必ずとり続ける ③ 外部機関との連携。本人の口から「最近、暇やねん。」という言葉が出たら、外への興味の合図。登校刺激も可。遊びに連れ出すのも良い |

| 補 | | 足 | |
|--|---|---|--|
| 休みはじめ(3日) | 休みが続く(1週間) | 月に数回の登校 | 全欠状態 |
| <p>◆ <u>子どもは減多に休みません</u>。連続して休む場合は何らかの理由があると考えられます(友人関係、学業、部活動、漠然とした不安感、心因性、無気力、家庭環境など)</p> <p>◆ 1日休んだだけでも再登校に不安を感じる子はいます。支援の方法はケースによって異なります</p> | <p>◆ 連続ではなくても、ひと月に3日を超える欠席がある場合や休日明けの欠席が多い場合は、<u>不登校のサイン</u>と考えられます</p> <p>◆ 早めに、本人が安心できる時間帯に安心できる場所で相談を行います</p> <p>◆ 保護者に子どもの状態、学校での様子、本人の訴えを伝え、家庭での様子を聞きとります。また、<u>保護者との連絡のとり方(時間帯、固定電話 or 携帯電話)を確認</u>しておきます</p> | <p>◆ 不登校のタイプによって対応が変わります。<u>見立て</u>が大切です</p> <p>◆ 不登校生の中には、断れずに何でも「はい。」と言って相手に合わせてきた子が多いです。このタイプの子が不登校になると、<u>生活が急に乱れる</u>ことがあります。(ゲーム、携帯、昼夜逆転、反抗など)保護者は混乱しがちですが乱れは一時的なことが多く、十分に心が休めたら回復する場合があります</p> | <p>◆ 本人の状態によりませんが、「学校に行かないのなら問題集をこれだけしなさい。」とか、「家の手伝いをこれだけしなさい。」といった<u>仕事を与えない方が良い</u>です。本人が十分に休める環境を作り(一時的に生活は乱れますが)、心が回復するまで待てば、何かを始めようという動きが出てきます</p> <p>◆ きっかけも大事です。学期のはじめ、進級時、大型連休明け、テスト明けなどに登校を呼びかける(約束はしない方がよいです)のもひとつの手です</p> |
| <p>7日間連続(授業日)現認できなければ通告予告!</p> | | | |

3 留意点・その他

いじめ・虐待が理由ならば即対応!

(1) 休みの原因を探るとき、気を付けるポイントは、

① 『いじめ』や『虐待』が疑われるとき

- ・ 学年主任、生徒指導、管理職へすぐに報告 → 『いじめ対策委員会』または『虐待防止委員会』の開催
- ・ 情報共有(学年職員、生徒指導委員会、学校全体)
- ・ 教育委員会や外部機関へ相談、通告、通報

② 本人にも理由がはっきりとわからない場合があります。

このようなケースでしつこく理由を聞いても何の解決にもなりません。

- ・ 漠然とした不安を抱えていてそれが言葉にできないときは、本人が発する断片的な言葉を少しずつ集めていきます。寄り添う姿勢で、本人のペースに合わせます。
- ・ 先入観や思い込みを持たずに対応していきます。「心が弱い」「自分に甘い」「親が過保護」などと批判するような言葉をいくら並べても、解決策は見いだせません。

③ 学年職員、生指、養護教諭、SC、SSWなどと連携し、多方面から見立てを行います。

- ・ 保護者のようす、兄弟姉妹、経済状況、地域での関係性、成育歴、既往歴、医療機関や外部機関、小学校での様子、周囲にいる大人（祖父母、親類、内縁者）など
- ・ 誰が、どのように支援していくのかを明確にします。
- ・ 情報の共有と記録が大切です。

(2) 非行性がなく主に心因性の不登校で、学校に行きたいという気持ちはあるが行けずに困っている生徒には子どもサポートルーム『エスパル』があります。ただし次の点に注意してください。

① 入級の手続き

- ・ 中学校（生指または管理職）から教育相談室へ入級希望の連絡を入れます。本人や保護者、担任が直接連絡することはできません。
※保護者には『エスパルへの入級』ではなく『教育相談室への相談』と紹介してください。
- ・ 教育相談室で面談し、三者（家庭、学校、相談室）で入級が望ましいと判断すれば『入級申込書（保護者）』に『入級依頼書（学校長）』を添えて提出します。

② 1日の流れ

10:00 朝の会、園芸活動

10:20 自主学習タイム（自分で課題を決めて1人ひとりのペースで学習します）

12:00 昼食、休憩

13:00 自主活動タイム（主にスポーツやゲーム、創作活動の中からやりたい活動を選んで子どもどうしが関わりを持てるようにします）

15:00 終りの会

※活動や時間は固定されたものでなく柔軟に対応します。

③ その他

- ・ 通級は保護者の責任で通わせる必要があります。（電車代負担、安全面配慮）
- ・ 場所は、天神山小学校付近の教育相談室になります。
- ・ 在籍は、学校のままです。転出にはなりません。
- ・ 教育相談室・エスパルの登校は、出席扱いとすることができる。

(3) 生徒の見立てができて、はじめて具体的な支援ができます。

- ・ 発達障がい、愛着障がい、メンタルヘルス、環境要因など、考えられる原因は様々。それらが引き起こす具体的な反応を理解しているからこそ生徒の見立てができます。

- ・ 学校でできる支援か、外部機関との連携が必須なケースか…の判断
- ・ 非行性が高い → 警察、協働員、サポートセンター、子ども家庭センター
- ・ 家庭環境的な要因 → 生活福祉課、子ども給付課、SSW、子ども家庭センター
- ・ 心因性・発達 → SC、教育相談室、子ども家庭センター、医療機関

(4) 心因性タイプの不登校、無気力タイプの不登校

- ・ 心因性の子は、「学校に行かなくては。」という意識が強すぎて、新年度の節目に頑張りすぎる傾向があります。保護者や教師がそれを理解して、過度の期待や緊張を与えないように配慮し、心が疲れきる前に欠席や遅刻、早退を許すなど、柔軟に対応する必要があります。
- ・ 無気力の子は、本人の「困り感」が乏しい傾向があります。積極的に登校刺激を与え、時には学校へ連れてくるなどして、登校を支援する必要があります。

(5) 不登校生徒への支援の在り方について

- ・ 不登校生徒の中には、学校外の施設において相談・指導を受け、社会的な自立に向け懸命の努力を続けている者もあり、このような児童生徒の努力を学校として評価し支援するため、我が国の義務教育制度を前提としつつ、一定の要件を満たす場合に、これら施設において相談・指導を受けた日数を指導要録上出席扱いとすることができることとする。

子どもは減多に休みません。休日明けに休んだり、月に3日以上休んだり、あいまいな理由で遅刻したりするときは、何らかの理由があると考えべきです。われわれ教師がアンテナを高くして、感度を上げて、子どもが発するサインをつかみ、予防し、早期に発見し、対応することが大切です。どの一人も見落とさない姿勢で、みんなで協力して、子どもたちに関わっていきましょう。